

平成 21 年 4 月 1 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2007～2008

課題番号：19830114

研究課題名（和文） 日本の大学における問題指向的学習による国際教育の促進

研究課題名（英文） Promoting International Education through Problem Based Learning in Japan University

研究代表者

ン・ロン・チン パトリック（N.L.C. PATRICK）

立命館アジア太平洋大学・言語教育センター・上級講師

研究者番号：40454970

研究成果の概要：

国際大学において日本人学生は、留学生と一緒に様々な課題に基づいた作業を完遂させる過程で英語を使わなければならない状況におかれるが、この際、「問題基盤型学習法（Problem Based Learning。以下「PBL」という。）を用いることで日本人学生のコミュニケーション能力を向上させることができる。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	840,000	0	840,000
2008 年度	490,000	147,000	637,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,330,000	147,000	1,477,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：問題指向的学習、国際教育

1. 研究開始当初の背景

立命館アジア太平洋大学の言語教育センターで上級講師として教鞭をとっている。ビジネス英語を受け持っており、授業の中でPBLを採用している。

2. 研究の目的

研究目的として以下を提起する。

- (1) 学生が課題に取り組む際に、PBL はどの程度学習意欲を高め、科目内容の理解力を向上させることができるか？
- (2) 様々な文化背景を持つ学生と協力し作業を進めるにあたって、PBL はどの程度、

学生の国際感覚を育成できるのか？

- (3) 課題に基づいた作業を進めるには英語を使わなければならないが、この際、PBLを用いることで、どの程度日本人学生の英語コミュニケーション能力を向上させることができるのか？

3．研究の方法

- (1) PBLに関する文献レビュー
- (2) 講義中心の授業方法に関する調査
- (3) 教育カリキュラムにおけるPBLの導入
- (4) 既に授業でPBLを用いているシンガポールと日本のかつての同僚との協議

4．研究成果

学生は学びの刺激剤として、PBLを用いた学習方法を徐々に受け入れていく傾向にあることがこの研究によって明らかになった。また、提起された問題に基づく授業課題に取り組みながら、学生の自発的な学びも向上した。さらに、学生は問題の解決策を分析した後、計画を立て解決方法を特定する、という経験を通して学んでいたことが分かった。自分の英語に自信がなく、初めのうちはPBL課題について他の学生とのディスカッションには非積極的であった者もいたが、実施条件が適切であれば、PBLは効果的で、特に、英語中級以上の学生には効果があることもこの研究で示された。

以下、前述の各研究目的についての結果である。

- (1) 学生が課題に取り組む際に、PBLはどの程度学習意欲を高め、科目内容の理解力を向上させることができるのか？

- 学生は、教員が一方向的に知識を伝える講義中心の教授方法を通してではなく、自らの発見によって学んでいることが研究によって示された。この学習方法は学生の「深い学び」に繋がり、科目内容の記憶保持能力も向上した。また、PBLにより学生は現実社会の問題を解決しようと互いに協力していきながら自らの学びに主体的に取り組んでいく、という結論を学生のレポートや宿題から導き出すことができた。さらに、学生はPBLを通じた課題プロジェクトに携わりながら授業内容の知識基盤を広げることもできた。プロジェクトに取り組みながら学生は、授業内容に関連した技術、概念、見解の習得に集中できるだけでなく、様々な見解に関する諸問題を探求、実証し、模擬的ではあるが将来学生が直面する現実社会の難題を体験できることがこの研究によって明らかとなった。

- (2) 様々な文化背景を持つ学生と協力し作業を進めにあたって、PBLはどの程度、学生の国際感覚を育成できるのか？

- PBLは異文化環境での協同的な学びを促進する為、学生に有意義な経験を提供するという傾向にあることが研究結果によって明らかとなった。ほとんどの学生は、国際感覚を持った他の学生と協力し現実社会の問題を反映した課題に取り組みながら、先入観のない柔軟な考え方を身に付けていった。多文化環境においてブレーストーミングを行い様々な考えを得るなかで、PBLを通じて提起された問題は、学生が「既存の考えから脱却する」ための刺激剤および枠組みとなった。留学生からのフィードバックを通じて、日本人学生は問題に対処する際に自分の考えをどのように表現すべきか、また、どのように

責任を共有すべきか、について学ぶことができた。また、PBL は異文化環境でのコミュニケーション能力に関する理解を向上させる為、国際大学で第3言語を学んでいる学生にも効果的である、ということも研究によって示された。

(3) 課題に基づいた作業を進めるには英語を使わなければならないが、この際、PBL を用いることで、どの程度日本人学生の英語コミュニケーション能力を向上させることができるのか？

- PBL によって、日本人学生はきちんとした英語を使おうという意識が高まったことが研究結果によって示された。また、留学生と協力しPBL プロジェクトを進めていくことで、日本人学生は英語を話す学生とどのようにコミュニケーションをとればよいのかも学んだ。この経験によって他の学生と話すときも、以前よりもきちんとした英語を使うことに注意するようになった。さらに、複数の英語圏の学生と協力していきながら、学生は英語を母国語とするのはアメリカ人やイギリス人だけではなく、色々なアクセントを持った英語があることも理解でき、その結果、様々な英語に対する理解も深まった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

Ng Chin Leong, Patrick, **The impact of Problem Based Learning in the EFL Classroom**, Polyglossia, The Ritsumeikan Center for Asia Pacific Studies, Vol. 16, p41-48 February 2009 (査読無)

Ng Chin Leong, Patrick, **Using Problem-based scenario in Readers Theatre (RT)**, Essential Teacher, TESOL Journal USA, December 2008 Vol. No. p31-33 (査読有)

Ng Chin Leong, Patrick, **The impact of Problem-based Learning in collaborative writing**, The English Teacher, Malaysia English Language Teaching, MELT, (査読有)(December 2008)

Ng Chin Leong, Patrick, **Energising the EFL classroom: Problem-based Learning**, In K. Bradford Watts (Ed.), (査読有) *JALT2007 Conference Proceedings*. Tokyo: JALT. (2008). p305-309. URL: http://www.jalt-publications.org/proceedings/2007/writer_access.php.

[学会発表](計 3件)

Ng Chin Leong, Patrick, **The Impact of Problem-Based Learning in the EFL Classroom**, 異文化コミュニケーション学会第23回年次大会 “The Promotion and Contribution of Intercultural Education and Training” 2008年11月8日-9日、信州大学教育学部、長野市

Ng Chin Leong, Patrick, **Business English through Problem Based Learning**, 4th Cam TESOL conference, National Institute of Education, Phnom Penh, Cambodia. 2008年2月23日-24日

Ng Chin Leong, Patrick, **Problem-based Learning**, The Japan Association for Language Teaching, 33rd International

Conference . 国立オリンピック記念青
少年総合センター、東京、 2007 年 11
月 22 日 -25 日

〔図書〕(計 0 件)

なし

〔その他〕

なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

ン・ロン・チン パトリック

(N.L.C. Patrick)

立命館アジア太平洋大学・

言語教育センター・上級講師

研究者番号：40454970

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし